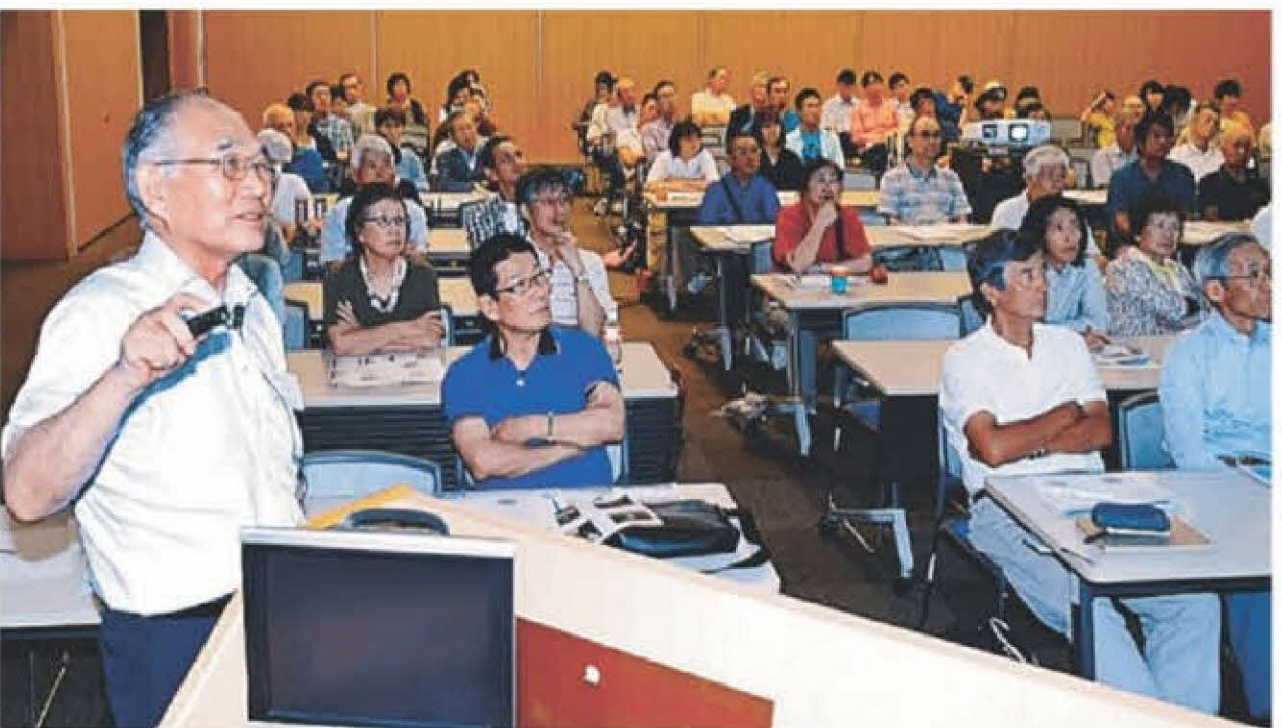


ブラックホール 研究成果を解説

駅前町で七夕講演会

七夕に合わせた宇宙の講演会がこのほど、三田市駅前町のまちづくり協働セン

ターで開かれた。日本天文学会が呼び掛けて国内70カ所以上で開かれる「全国同時七夕講演会」の一環で、市民ら約100人が参加。関西学院大理工学部の中井直正教授(65)「電波天文学」が、学術的な研究成果を分かりやすく伝えた「写真」。



中井教授は星の集まりである銀河や、その中にあるブラックホールの研究者と

して知られる。今年4月、日本などの国際チームがブラックホールの撮影に初めて成功したことで、社会的な関心が高まっている。

講演では、ブラックホールについて「とても質量の大きい天体で、地球が半径1センチ以下に縮むくらいだ」などと紹介。光のみ込むような吸引力があり、直接観察することはできないが「周辺の光や電波の動きを調べて判断する」と、研究の仕組みなどを解説した。

(高見雄樹)

神戸新聞 (三田阪神版)

2019年7月3日